



建設業の生産性向上

株式会社安部日鋼工業

代表取締役会長 高橋 泰之

弊社は公共工事を事業の中心に置くプレストレストコンクリート(PC)建設業者です。橋梁や配水池などの建設とPCまくら木などの製造を安全・品質を最優先に、インフラ建設で社会に貢献しています。今日、建設業には大きな変革の波が来ています。

1点目が少子・高齢化による生産労働人口の減少です。人口減少社会に向けて高度成長期に築いてきた制度をことごとく改める必要が出てきたと思っています。人口増加時代は、転職の少ない雇用の安定した終身雇用と定年制、年功序列制と、春の一斉入学・入社、年金制度のように、社会的な最適解を求めた結果として日本的な制度を生んだと思います。しかし、高齢化と少子化による人口減少が表面化してくると就労生産人口は減り、生産性が同じであれば経済は縮小します。女性の活躍、高齢者の雇用、外国人労働者の採用を生かしたとしても、少子化が止まらなければ就労生産人口は増えません。そこで求められることは生産性の向上となります。

2点目が日本の国土強靱化の問題です。自然災害に対応するための社会基盤の新設・維持・更新とそのための技術力の確保です。建設産業は3Kの代表のように見られ、新卒者などの採用を難しくしています。それには社会貢献する良さを生かして魅力ある産業に転換し、新3K「希望が持てる、休暇がとれる、給料が良い」を目指して働き方改革を図る必要があります。このためにも生産性を上げ利益を上げていく必要があります。

3点目はデータテクノロジー(DT)の革新です。建設構造物は一件一件の個別設計が多く、機械化、標準化、部品化などを難しくしています。労働力不足対策として工場生産化に向けて官民協力して改善を目指しています。また、生産性の向上はコストや工期の改善だけでなく、安全性や機能・性能の向上にも結びつくはずで、そして建設システムの計画、設計、積算、入札、施工、メンテナンスなどに対しても、生産性を改善する余地はまだまだあるはずで、特にメンテナンス期にはIoT、ビッグデータ、AIなどを活用してのイノベーションを図る必要があります。

ダーウィンの言葉を借りれば、「最も環境の変化に適応できた者が生き延びる」。日本は最適解を求めるが故に働き方がガラパゴス化していきました。今が改革のチャンスです。人材育成と共にDT投資で生産性向上を図って社会に貢献する会社になりたいと思っています。